

「7.3」「7.17」——権力との闘争

導入部

「7月3日」「7月17日」は、広宣流布の団体である創価学会と、その前進を阻もうとする権力の魔性と
の闘争において重要な意義を留める日です。弟子である私たち一人ひとりが、三代の師弟の正義の大闘争に
学び、誓いも新たに出發しましょう。

1枚目／「大阪事件」 （8枚目の絵の裏に貼る）

昭和32年（1957年）7月3日、当時、青年室長として指揮をとっていた若き日の池田先生が、事実無根の
容疑で不当に逮捕されました（大阪事件）。

この年の4月、参議院大阪地方区の補欠選挙で、一部の学会員が選挙違反の容疑により逮捕。検察は、逮捕
された学会員を強引に取り調べ、「池田室長の指示で選挙違反を行った」との虚偽の供述をさせ、池田室
長に大阪府警察本部への出頭を命じたのです。

2枚目／炭労問題の渦中での出頭要請 （1枚目の絵の裏に貼る）

そのころ池田室長は、北海道の夕張にいました。

当時、勢力を誇っていた夕張炭労（炭鉱労働組合）が、学会の急速な発展を妬み、現地の学会員を不当に
弾圧しました。第二代会長戸田先生は、炭労の弾圧から学会員を守るため、愛弟子の池田室長を北海道に派遣
したのです。

北海道で大阪府警への出頭要請を知った池田室長は、7月1日、2日と、炭労に抗議する大会を行い、夕
張の学会員に勇気と確信の火をともし、大阪に向かいます。

3枚目／羽田空港での師弟の姿

(2枚目の絵の裏に貼る)

7月3日、大阪府警に出頭するため、池田室長は北海道の千歳空港を出発します。途中、乗り継ぎのために降りた羽田空港の待合室には、戸田先生が待っていました。

迫害を一身に受け、権力の魔性との戦いに向かおうとする池田室長の身を案じた戸田先生は「死んではならんぞ。大作、もしも、もしも、お前が死ぬようなことになったら、私もすぐに駆けつけて、お前の上につぶして一緒に死ぬからな」と、命を振り絞るように語り、池田室長を見送りました。

4枚目／出獄と入獄の日に師弟あり

(3枚目の絵の裏に貼る)

大阪府警に出頭した池田室長が、公職選挙法違反の容疑で投獄されたのは、7月3日の午後7時ごろでした。

この12年前の昭和20年(1945年)7月3日のほぼ同じ時刻、戦争に反対し軍部政府に不当に逮捕されていた戸田先生は、2年に及ぶ獄中闘争を貫いて出獄しました。

のちに池田先生は「出獄と入獄の日に師弟あり」と詠み、創価の師弟を貫く深き縁と、権力の魔性と戦い抜く精神をとどめたのです。

5枚目／東京大会

(4枚目の絵の裏に貼る)

7月12日、池田室長の即時釈放を求める東京大会が緊急に行われました。さらに戸田先生は、衰弱した体を押して、自ら大阪地方検察庁へ抗議に出向きます。

獄中で池田室長は、厳しい取り調べにも屈することなく、無実を主張しました。そこで検察は、罪を認めなければ戸田会長を逮捕すると、池田室長に迫ったのです。

“お体が衰弱した戸田先生が投獄されるようなことがあってはならない”——池田室長は苦悩の末、師匠と学会を守るため、身に覚えのない罪をいったんは認め、裁判の場で無実を証明することを決心します。

6 枚目／^{おおさかたいかい}大阪大会

(5 枚目の絵の裏に貼る)

7 月 17 日の^{しょうごす}正午過ぎ、^{いけだしつちやう}池田室長は^{おおさかこうちしよ}大阪拘置所から^{しやくほう}釈放されました。^{とだせんせい}戸田先生は「^{たたか}戦いはこれからだよ。
^{ごほんぞんさま}御本尊様はすべてわかっていらっしゃる。^{しょうぶ}勝負は^{さいばん}裁判だ。^{さいばんちやう}裁判長は^{かなら}必ずわかるはずだ」と、^{かくしん}確信に^み満ちた^{ことば}言葉
で^{げきれい}池田室長を激励します。

午後 6 時から、^{おおさかふけい}大阪府警・^{ちけん}地検に^{こうぎ}抗議する大阪大会が^{なかのしまこうかいどう}中之島公会堂で^{かいさい}開催され、^{ししき}池田室長は^{ししき}師子吼します。
「^{さいご}最後は、^{しんじん}信心しきったものが、また、^{ただ}正しい^{ぶつぽう}仏法が、^{かなら}必ず^か勝つという^{しんねん}信念でやろうではありませんか！」

7 枚目／^{さいばん}裁判で^{せいぎ}正義を^か勝ち^と取る

(6 枚目の絵の裏に貼る)

^{むじつ}無実の^{つみ}罪で^{きそ}起訴された^{いけだせんせい}池田先生が、その後の^ご裁判で^{さいばん}正々堂々と^{せいせいどうどう}真実を^{しんじつ}訴えたことによって、^{とだせんせい}戸田先生の^{かくしん}確信
の^{とお}通り、^{けんさつがわ}検察側の^{むじゅんてん}矛盾点が^{あき}明らかになっていきました。

^{ふとうたいほ}不当逮捕から 4 年半が^{けいか}経過した昭和 37 年 (1962 年) 1 月 25 日の^{だい}第 84 回^{こうはん}公判で、ついに^{いけだせんせい}池田先生は無罪判決
を勝ち取ります。^{こうそ}検察は^{だんねん}控訴を断念し、^{かくてい}無罪が確定。2 月 8 日、^{こうふたび}広布旅の^{とじやう}途上であるエジプトでその^し知らせを
受けた^{いけだせんせい}池田先生は、^な亡き^{おんし}恩師・^お戸田先生に^{おも}思いをはせ、^{せかいこうふ}世界広布への^{あら}新たな^{ぜんしん}前進を^{ちか}誓いました。

8 枚目／^{こうせんるふ}広宣流布は^{ほとけ}仏と^ま魔との^{たたか}戦い

(7 枚目の絵の裏に貼る)

「^{おおさかじけん}大阪事件」での^{いけだせんせい}池田先生の^{むざいかくてい}無罪確定は、^{がつかい}学会の^{せいぎ}正義を^{まんてんか}満天下に^{しめ}示す、^{おお}大きな^{しょうり}勝利でした。
^{せんじか}戦時下の^{ぐんぶせいふ}軍部政府に^{ていこう}抵抗し、^{じゆんきやう}殉教した^{しやうだい}初代会長^{まきぐちせんせい}牧口先生と共に^{とも}獄中^{ごくちゆうとうそう}闘争を^{つらぬ}貫き、7 月 3 日に^{しゅつごく}出獄した
^{だいにだいかい}第二代会長^{とだせんせい}戸田先生。そして、同じ 7 月 3 日に^{にゆうごく}入獄し学会の^{はってん}発展を^{おそ}恐れる^{けんりよく}権力の^{さくぼう}策謀を^う打ち^{やぶ}破り、^か勝って
^{せいぎ}正義を^{しやうめい}証明した^{だいさん}第三代会長^{いけだせんせい}池田先生——。三代会長が貫いた^{ましやう}権力の^{とうそう}魔性の^{とうそう}との闘争は、^{こうせんるふ}広宣流布が^{ほとけ}仏と^ま魔との
^{かんだん}間断なき戦いであることを示しています。^{わたし}私たちはこの三代会長の^{せいしん}精神に^{まな}学び、^{くつ}どんな魔にも^{つよ}屈しない強い
^{じぶんじしん}自分自身を^{きず}築いていきましょう。

^{けつい}決意など